

---

第8回 三朝町議会定例会会議録（第2日）

平成27年12月11日（金曜日）

---

議事日程

平成27年12月11日 午前10時開議

日程第1 一般質問

清水 成 眞 議員

能見 貞 明 議員

山口 博 議員

池田 雅 俊 議員

---

本日の会議に付した事件

日程第1 一般質問

清水 成 眞 議員

能見 貞 明 議員

山口 博 議員

池田 雅 俊 議員

---

出席議員（12名）

1番 石 田 恭 二

2番 吉 田 道 明

3番 池 田 雅 俊

4番 能 見 貞 明

5番 中 信 貴美代

6番 山 口 博

7番 清 水 成 眞

8番 藤 井 克 孝

9番 平 井 満 博

10番 山 田 道 治

11番 牧 田 武 文

12番 福 田 茂 樹

---

欠席議員（なし）

---

欠 員（なし）

---

事務局出席職員職氏名

局長 ..... 山 根 猛 昭 副主幹 ..... 小 椋 智 子

---

説明のため出席した者の職氏名

町長 ..... 吉 田 秀 光 副町長 ..... 岩 山 靖 尚  
教育長 ..... 朝 倉 聡 総務課長 ..... 石 原 伸 二  
会計管理者 ..... 山 根 智 美 危機管理課長 ..... 大 村 哲 也  
財務課長 ..... 赤 坂 英 樹 町民税務課長 ..... 片 岡 里 美  
福祉課長 ..... 新 寛 子育て健康課長 ..... 前 田 敦 子  
農林課長 ..... 青 木 大 雄 企画観光課長 ..... 椎 名 克 秀  
建設水道課長 ..... 米 原 英 章 教育総務課長 ..... 小 椋 泰 志  
社会教育課長 ..... 西 田 寛 司 社会教育課参事 ..... 松 原 照 宗  
社会教育課（図書館）参事 馬 野 真由美 農業委員会事務局長 ..... 吉 田 弘 幸  
ブランナールみささ支配人 小 椋 誠

---

午前10時00分開議

○議長（福田 茂樹君） 皆さん、おはようございます。

ただいまの出席議員は12名であります。定足数に達しておりますので、直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付しているとおりであります。

---

日程第1 一般質問

○議長（福田 茂樹君） 日程第1、一般質問を行います。

一般質問は4名の方から通告を受けておりますので、日程の順序により、これを許します。

初めに、7番、清水成真議員のブランナールみささの質問を許します。

清水成真議員。

○議員（7番 清水 成真君） 私は、今定例議会において、ブランナールみささについて町長に質問をいたします。

本年の4月より、ブランナールみささの運営について、民間活力導入可能性調査を実施し、早期の民間活力導入を図ることとしました。選択肢の検討は、1つ、施設の民間業者への譲渡、2つ、普通財産として民間事業者に貸付、これは貸し付けということですね。3つ、指定管理者による運営、4つ、PFI運営権制度による運営、PFIというのは、所有権は町にあり、運営権を民間業者に任せるということとあります。5、施設の廃止、他用途への転換、6、直営による継続運営であります。

現在の調査状況について、お伺いします。三朝町議会では、3月定例会終了後に各地域において議会報告会を実施し、その中でもブランナールみささの今後について、多くの御意見をいただきました。町民の皆様も非常に関心が高い問題であります。町の今後の方針をお聞かせください。

○議長（福田 茂樹君） 答弁、吉田町長。

○町長（吉田 秀光君） 清水成真議員のブランナールみささについての御質問にお答えをいたします。

国民宿舎事業への民間活力導入可能性調査の状況と今後の方針についての御質問でございますが、議員御質問のとおり、ブランナールみささのあり方を運営形態も含めて検討していくために、現在、民間活力導入に係る基礎調査を行っているところであります。この調査は今後の運営方針を決定するための基礎資料とするために実施しているもので、調査の内容としましては、国民宿舎事業の外部環境の調査、不動産鑑定等の資産の評価、建物、設備の現況調査と今後の修繕の件、更新費用の見通し、さらには、財務状況の分析やそれに基づく精算、バランスシートの作成、今後のシミュレーションの分析などが主なものでございます。この調査の完了につきましては、来月末ごろを予定しておりまして、結果の報告まではもう少し時間をいただきたいと思います。調査の途中でございますので、調査状況の詳細について、ここで述べさせていただくことは控えさせていただきますと思いますが、調査の中でさまざまな課題も出てきており、今後の方針としての選択肢を選ぶにしても、痛みを伴う厳しい決断を迫られることになろうかと思っているところであります。

議員御指摘のとおり、この問題に関して町民の皆さんが非常に高い関心を持っておられ、ブランナールみささを心配する大きな声が私の耳にも届いておるところでございます。ブランナールみささの果たしてきた役割や存在意義は大きく、どうすれば事業を継続していけるかを慎重に検討してまいりたいと考えているところであります。

ブランナールみささの灯を消すことは、日本遺産認定を機に三朝温泉を盛り上げていこうとする機運に水を差すことになりかねません。三朝温泉にとって、町民にとって、どのような方法が

一番いいのか、今後、今議会においても御相談申し上げ、慎重に結論を出してまいりたいと思っております。いずれにしても、まずは職員とともに経営改善に向けて努力をしていくことが今は何よりも重要なことと考えているところでございます。

日ごろから議員各位にはブランナルみさきの経営改善等について、さまざまな御提案、御助言をいただいていることは心から感謝申し上げますとともに、引き続き、御指導賜りますようお願いを申し上げ、答弁とさせていただきます。

○議長（福田 茂樹君） 清水議員。

○議員（7番 清水 成眞君） 先ほど町長から、最終的な調査結果についてはここでは控えさせていただくということでありました。1月末、2月末、3月までには何とか調査結果が出るのではないかというふうなことでありますが、この6つの課題、検討をされるに当たって、今、非常に多くの課題があるんだというようなことでありました。また、どれを選んでも痛みを伴う結果になりそうだということでもあります。痛みを伴うということは財政的なことだと感じておりますけども、それ以外のことで雇用件数とか、そういうこともあろうかなと思っておりますが、今の段階で町長はその痛みについてはどのように感じておられますか。

○議長（福田 茂樹君） 吉田町長。

○町長（吉田 秀光君） やはり議員おっしゃるように、一つは財政的な面での思いであります。これは今々のことではないと思っております。かねて、いろんな角度で本議場でも議論を行ってきたところでございますが、当初の計画そのものには起因する部分もございまして、それらも含めて財政的な面、いま一つは、非常に多くの方を雇用してスタートを切ったという時点でありまして。現在は非常に正規職員を少なくいたしておりますけども、そういった過去の経緯の中で重荷となってきた面等もございまして。そうしたことも含めて、またしっかり資料を整えて御相談を申し上げてまいりたいと思っております。

○議長（福田 茂樹君） 清水議員。

○議員（7番 清水 成眞君） この質問については最後にしたいと思いますが、今、日本遺産に登録された三朝温泉、三徳山、先ほども町長の答弁でありました。本当にこのブランナルみさきというものの灯を消すことは、本当にこの登録について水を差すことなんだという答弁もございました。今後、ブランナルみさきの継続について、本当にこの日本遺産との関係も含めて今、町長はどのような思いをしとられるのか、一言コメントをいただいて終わりたいと思います。

○議長（福田 茂樹君） 吉田町長。

○町長（吉田 秀光君） 重ねてのお尋ねでございます。どのような思いを今持っているのかとい

うことでありますが、非常に温泉の泉質と効能が素晴らしいということで、相当なりピーターが  
できているのが状況でございます。県外からも四半期に1回、おいでになると20日間ぐらい湯  
治をしてお帰りになってるというケースもございます。そうした御利用いただいている多くの皆  
さんとあわせて、町民の方も非常にたくさんおいでいただいております。何とかして、先ほど申  
し上げたように、継続する方向を目指していきたいと思っております。

○議員（7番 清水 成真君） 終わります。

○議長（福田 茂樹君） 次に、小学校統合についての質問を許します。

清水成真議員。

○議員（7番 清水 成真君） 私は、今定例会におきまして、三朝町3校の小学校統合について、  
教育長にお伺いをいたします。

9月議会の一般質問において、1つ、教育委員会の意見集約と総合教育会議の開催のスケジ  
ュールについてお聞きをいたしました。2つ目は新設小学校の位置についてお伺いをいたしました。  
3つ目は通学方法についてお伺いをいたしました。そして、4つ目、廃校になった校舎の活用につ  
いて質問をいたしました。教育長より、今後のスケジュールについては、意見集約をする教育  
委員会を9月中に開催し、その会議での結論を踏まえた総合教育会議をできるだけ早く開催する  
予定ですということでありました。町長を含めた総合教育会議が開催されているとは思いますが、  
三朝町の最終的な方針はどうであったのかお聞きします。

続いて、小学校の位置については、教育長は、学校の位置については現在の西小学校周辺が妥  
当ではないかというふうに思っておりますという答弁でありました。教育委員会ではどのような  
協議がなされ、どのように意見集約されたのかお聞かせください。また、通学方法については、  
基本的には保護者の皆さんの金銭的な負担がないようにということ而努力していかなければなら  
ないということでありました。教育委員会としての協議はどうだったのかお聞かせください。以  
上、質問いたします。

○議長（福田 茂樹君） 答弁、朝倉教育長。

○教育長（朝倉 聡君） 清水成真議員の小学校の統合についての御質問にお答えします。

初めに、町長を含めた総合教育会議が開催されていると思うが、三朝町の最終的な方針はどう  
であったかという御質問をいただきました。総合教育会議は、今後できる限り早い時期に開催し、  
町執行部としての方針を出してまいりたいと存じますので、御理解を賜りたいと思います。

次に、教育委員会ではどのような協議がなされ、どのように意見集約したのか聞かせてほしい  
という御質問をいただきました。教育委員会では現在、学校の位置及び校舎の増改築、新築等の

施設整備等について意見集約をするための最終的な協議を行っているさなかでございます。意見集約の内容と意見集約に至った協議の内容につきましては、決定後、速やかに議会に報告し、協議していきたいと思っておりますので、御理解をいただきたいと存じます。

最後の質問ですけれども、通学方法については、新しい学校の位置及び校舎の施設整備の方針が決定した後に、統合準備委員会で協議していただきたいと考えておりますので、御理解を賜りたいと思っております。以上、答弁とさせていただきます。

○町長（吉田 秀光君） 清水議員。

○議員（7番 清水 成眞君） 私は、きょう聞きたかったのは教育会のどのような協議がなされるところですね。9月中に結論が出ると思っておりましたが、なかなかその意見集約ができない。どのような協議がなされているのかということを書いてありますが、その意見集約ができていないということは、どのような協議がなされているのか、ちょっとお聞かせをいただきたい。

○議長（福田 茂樹君） 朝倉教育長。

○教育長（朝倉 聡君） 9月に教育委員会を開いて方針を決定するというふうに申し上げました。その後に、新しい小学校を建築するとした場合にかかなりの経費がかかるというふうなこともございますので、その経費につきまして、国のほうなり県のほうなりからのいろんな補助金というふうなものもいただけないかということで、いろいろそういうふうな調査もして、なかなかその調査に手間取っておったというふうなことがございます。それで、調査結果も大体まとまりまして、それを踏まえて、さて、どういうふうな形がいいのかというふうなことに協議に入りまして、それから、これまで数回にわたりまして協議をしてございましたけれども、最終的な結論にまとまりつつありますけれども、今現在の状況では公表できる状況にないということでございますので、御理解を賜りたいと思っております。

○議長（福田 茂樹君） 清水議員。

○議員（7番 清水 成眞君） ちょっとよくわからなかったんですが、その財政的なものという今、ことが出ました。統合準備委員会のことも前回、教育長にお聞きしたときに答弁をしておられます。統合準備委員会では財政的なことはお知らせをしていなかったんでしょうか、資料として。

○議長（福田 茂樹君） 朝倉教育長。

○教育長（朝倉 聡君） 統合準備委員会では3つ程度の案を示しながら、例えば、今のある、西小を想定しておるわけですけれども、それを大規模改修する案、それとか新しく学校を建てる

案ですとか、そういうふうな案を示しながら、おおむね幾らぐらいの経費がかかるということは話をしながら話を進めてきておりました。

○議長（福田 茂樹君） 清水議員。

○議員（7番 清水 成眞君） ということは、統合準備委員会の中では財政的なものもわかった上で、その新築だという結論を出されたという認識でよろしいでしょうか。

○議長（福田 茂樹君） 朝倉教育長。

○教育長（朝倉 聡君） 理解していただいた上で、全会一致ではなかったですけども、大方の意見が新築が望ましいというふうなことで報告をいただいております。

○議長（福田 茂樹君） 清水議員。

○議員（7番 清水 成眞君） 私は、教育委員会というのは財政的なもの、もちろんあるとは思いますが、よりよい環境を町の子供たちに提供するというものが一番の重点だと。あと、財政的なものはあとは町長部局のほうがするわけでありまして、教育委員会というのは、私はどのような環境づくりを提案していくかということが第一義だと感じております。それは私の意見であります、そういう中で今、意見集約ができていないということでありました。新築なのか大規模改修なのかということの部分でも、まだ意見集約がされていないということでもよろしいですか。

○議長（福田 茂樹君） 朝倉教育長。

○教育長（朝倉 聡君） はい。ほぼ集約されつつありますけれども、これから議会全体で審議していただくことになりまして、さらに、その前に総合教育会議というふうなものもございますので、そういうふうなものに与える影響等を考えますと、この場でちょっと発言は控えさせていただきたいということでございます。よろしく願いいたします。

○議長（福田 茂樹君） 清水議員。

○議員（7番 清水 成眞君） いや、私は協議、どのような協議をなされたかというのがあったもんで、その今まで何回されたのかわかりませんが、9月以降、だから、その今の方針がまだ出ないという中で、協議の中でですよ、誰がどう言ったのかというのはまた別の話で、その中で今まだその方針が出ないというのは、その中に新築なのか大規模改修なのかという協議も合意に達していないのかということを確認をしたかった。

○議長（福田 茂樹君） 朝倉教育長。

○教育長（朝倉 聡君） 今、最終的にまとめつつあるということで御理解いただきたいと思います。あわせて、お知らせするときにつきましては、議会の全ての議員さんに対して一斉にお知らせをして御審議をいただきたいと思いますと考えておりますので、そのところを御了解いただきたいと思います。

います。

○議長（福田 茂樹君） 清水議員。

○議員（7番 清水 成真君） まだ何にも方針がまだ合意に達していないというようなことだというふうに理解はしておりますが、最終的には多数決ではないのかなというふうには考えておりますが、その中で早急に出していただきたいと思っております。本当に総合教育会議の中でもそうなんです、この間、地方版の総合戦略の中でも一番に教育が載っていました。本当にそういう中で、三朝町にとって30年後、40年後、50年後を見据えた姿というものを、やはり50年ぶりの統合でありますので、そういう部分において、子供たちの今後、三朝町を担っていく子供たちのよりよい環境をつくっていただきたいと思っております。

米百俵の精神っていうものがありますよね、小泉政権のときにそれを引用されたんですが、まさに、米100俵食べるともうそこで終わってしまうんだけど、あした1,000俵、あさってには1万俵になるために米100俵をお金にかけて学校をつくったというような長岡藩の指導者の言葉がありますが、そういう精神をもって、やはり三朝町の今後について考えていただきたいと思っております。最後にコメントいただいて終わりたいと思います。

○議長（福田 茂樹君） 朝倉教育長。

○教育長（朝倉 聡君） 議員のおっしゃるとおり、将来の三朝町を背負って立つ子供たちのためにすばらしい教育環境を与えなければならないということで、この小学校統合の問題に当たっております。新しい学校がどういうふうなものかというのにつきましても、かなり絞り込んで検討というか、教育委員会で協議も進めておまして、もう最終段階に立っております。議員の御意見もその中に取り入れながら、すばらしい環境を目指して頑張っていきたいと思っております。ただ、かなりの経費を必要とするという部分がありますので、当然のことですけれども、議会の皆さんにも御相談させて、御理解と御協力をいただきながら進めてまいりたいと思っております。何とぞよろしくお願ひしたいと思います。

○議員（7番 清水 成真君） 終わります。

○議長（福田 茂樹君） 次に、地方版総合戦略についての質問を許します。

清水成真議員。

○議員（7番 清水 成真君） 私は、今定例議会において、町の総合戦略について、町長にお聞きしたいと思います。

このたび10月に制定されました三朝町まち・ひと・しごと創生総合戦略についてお聞きをします。まだ策定前である6月に一般質問でもしましたが、三朝町のホームページでは、三朝町で



はこのほど人口減少に対応し、本町の皆さんが安心して暮らすこと、仕事に励むこと、そして、消費を行うことができる町を築いていくため、本町の持つ魅力を生かし、人口、経済、地域の課題に対して一体的かつ持続的に取り組んでいく計画として、また、仕事人が人を呼び込み、人が仕事を呼び込む好循環を確立し、その好循環を支える町に活力を取り戻すため、人の創生、仕事の創生、まちの創生について一体的に取り組んでいく計画として三朝町まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定しましたとあります。これらを踏まえ、質問をいたします。

総合戦略策定の基本となる人口ビジョンであります。三朝町においても国立社会保障・人口問題研究所の推計をもとに、三朝町人口の展望を上げています。その中で、合計特殊出生率の向上と転入出の均等を図ることで人口減少率を抑制するとあります。そして、三朝町の目指すべき方向として、3点上げられていました。時間がないので省略しますが、この3点について基本目標と具体的施策が示されています。新規事業も相当な数となっています。そこで、町長には、この総合戦略策定で重要視された点、また、町長が描いている三朝町のあるべき姿をお聞かせください。

○議長（福田 茂樹君） 答弁、吉田町長。

○町長（吉田 秀光君） 清水成真議員の地方版総合戦略についての御質問にお答えをいたします。

10月に策定いたしました本町の総合戦略でございますが、清水議員御質問のように、その構成として、まずは本町の人口ビジョンによって、これまでの人口動態から見た課題を示した上で、将来人口を推計し、人口減少の抑制に向けていくために、本町の目指すべき方向としてまとめております。そして、このビジョンに基づきながら具体的な施策として展開していくものとし、総合戦略として策定したものでございます。

この総合戦略につきましては、御質問のように5つの基本目標から成り、一つには「粹な教育で次代を担うみささっ子が育つまち」と題して、主に教育に関する施策をまとめております。同時に、2つ目には子育てや健康に関する取り組みを掲げ、3つ目は仕事に関する施策を、そして、4つ目は交流人口の増加や移住定住の促進に関する施策を掲げ、5つ目は安心・安全な生活環境や広域連携について関連する事業をまとめたものでございます。清水議員御質問のこれらの総合戦略策定の際に重要視した点並びに本町のあるべき姿につきましては、今回策定した戦略で示した具体的な事業の展開が密接にかかわり合っていく中で、その成果として、本町で安心して住み続けていただく、あるいは本町に住んでみたいと思っただくことができるまちづくりにつながっていくものであると思っております。

本町の人口減少の主な要因が若年層の人口流出であります。それに伴い少子化、あるいは高齢

化といった負の連鎖が生じておりますことから、いずれの段階でその連鎖を断ち切ることでできる効果的な施策の展開が肝要であると考えております。そして、まずは、本町をふるさととして大切に思い、自信を持って暮らしていくことができるような町となるような仕組みをきちんと構築していくことが本来のあるべき町の姿として大切であると考えております。町として積極的な支援を行ってまいりたいと考えております。

なお、今回策定いたしました総合戦略の展開は今後、随時、具体的事業の検証や検討を行いながら必要に応じて見直し、地域の実情に即した、より効果あるものとして施策を展開してまいりたいと考えておりますので、今後とも御指導賜りますようお願いを申し上げ、答弁とさせていただきます。

○議長（福田 茂樹君） 清水議員。

○議員（7番 清水 成眞君） 先日、鳥取県町村議会議員の研修会が北栄町でありまして、その中で、鳥取環境大学の地域イノベーション研究センターの教授であります千葉先生の話をお聞きすることができました。1時間半以上の講演でありましたので、非常に内容の濃い講演でありましたけれども、その中で地域総合戦略のことについても随分とお話を聞くことができました。人口ビジョンは各町村でいろいろと推計をされて出しておられるという中で、やはり減っていくのは仕方ないんだと、ただ、その中でいかに30年後、40年後、三朝町でいえば5,000人を保てるようにしていくのかということが問題だなというふうに私は感じたわけでありまして。その中で、いかに35歳以上の女性が町に残っていただけるのか、これが鍵ではないのかということはおっしゃられました。つまり、35歳以下の女性がたくさんおられる地域については、人口が伸びていくのではないかなというような提案でありました。現在、三朝町においても非常に転入出が激しいわけでありまして。自然減少も含めてであります。やはりそういう点で、この三朝町の現状を見て、町長はどのように感じておられますか。

○議長（福田 茂樹君） 吉田町長。

○町長（吉田 秀光君） 人口の1%の人数をふやしていく、ふやしていくって言ったならあれですけども、三朝町でいうと、例えば65人、1年間の間に転入という形を目指していく、そのことを町の段階で今計画をつくっているわけでありまして、それぞれの地域あるいは村、そこにやはり今後しっかり話し合いを展開していかなければいけないのではないかと。したがって、議員おっしゃる女性の35歳までの方というのももちろん最重要の大事なことでございますけども、全国的に目指してるのは、どの町も1%何とか転入という形の中でおいでいただき、そして、出ている、ふるさとを三朝に持っている人たちが1%の中に帰ってきていただくと、そうした情報発

信を役場の中でもしっかり情報発信をしていくところを構築をしていかなければいけないのではないのかなということを思ってるんですね。したがって、この総合戦略を、若干総花的な部分がございますので、それをそれぞれの村に、村にも数字を示してるわけです、今。その村に数字を示して、示しっ放しにしてはいけないと思っていますので、そのあたりをしっかりと今後、議会と相談しながら着実に進めていかなければいけないと思っています。

なお、非常に最近いい話題だと思っておりますが、町外の方で三朝町においでになって商売を始めてくださった方っていうのがぼつぼつ見え出してまいりました。この状況はしっかり応援して支えていきたいと思っています。きのうもトチの実を香りとしてコーヒーとともに味わっていただくトチの実コーヒーをつくりましたということで、役場にもお届けくださった事例もございます。そうした今までになかった姿が少しずつ見えてきつつございますので、応援をしていきたいと思っています。

○議長（福田 茂樹君） 清水議員。

○議員（7番 清水 成眞君） 先日、三徳地域協議会で村づくり懇談会をしました。その中で総合戦略についての説明をいただき、いろんな意見が出ておりました。三徳地域のほうの奥部集落のある区長さんが、総合戦略の中で、うちの本当に村の奥部集落に対しての総合戦略の中で、そういう事業があるのかというような質問がありました。非常に胸が痛く感じておりました。幾ら総合戦略の中に本当に村がなくなってしまうのではないかと、そういう危機感を持って暮らしておられる区長さんが確におられるんだと。自分たちの村を何とか守っていくために一生懸命努力していかなければならないという決意があった中で、村がなくなるというのは非常に寂しい思いをするんだというような気持ちだったんだなと思っています。そういう気持ちを含めて、やはりこれからも総合戦略を進めていかなければならないと思いますが、そういう意見を聞かれて、町長はどういうように思われますか。

○議長（福田 茂樹君） 吉田町長。

○町長（吉田 秀光君） 議員おっしゃるように、村の皆さんはそれぞれなりに非常に深刻に今後の状況を思っておられると感じています。一つには、話す相手がいるときはいいんですが、話す相手がいなくなったときのことなどを今から口になさってるおじいさん、おばあさんもおられると思っています。その三徳の地域協議会で総合戦略を細部にわたって検討し合おうという会のときに、私、よう出席をしていませんので、出席をしました副町長なり、あるいは担当課長からそのときの様子等を含めて感想を述べてみたいと思います。

○議長（福田 茂樹君） 岩山副町長。

○副町長（岩山 靖尚君） 私が企画観光課長と三徳地域に出させていただきました。先ほど清水議員言われたように、区長さんから村として大変、我々にそういう事業はあるのかという質問をいただきましたときに、村の皆さんもやはり人口の、村がなくなるという部分を危惧されとる部分は感じました。その中で、やはり老人の対策といえますか、100歳元気な健康づくりといえますか、そういう部分も含めてこの戦略の中には含まれておりますので、そういう部分を含め、また人口がふえる対策も含めて、また村の皆さんと協議してまいりたいなと思った、感じた次第でございます。

○議長（福田 茂樹君） 清水議員。

○議員（7番 清水 成眞君） 非常に総合戦略、一つ一つ見ていくといろんな事業がありますが、その一つ一つじゃなくて、やはり町長が前から言われてる住んでみたい町、住み続けたい町というようなことで、非常に家族全員が笑って過ごして、地域がもっともっと盛り上がっていく、そういうような、何となくふるさとを思い浮かべて、最終的にはそのふるさとに帰ってきていただく、そういうような戦略をしていただきたいと思っております。子供たちのことを非常に重要視されておられる総合戦略であります。まず最初に教育というものが第1項に出てくるということは、やはり町長の思いがそこにあったのかなと。教育を総合戦略の1番に持ってこられるというのはどういうことなのかなというふうに私も思ったわけですが、そういう中で、やはり子供たちの未来のこと、子供についてのことを一番に思っておられるんだなというふうに感じた次第であります。

そういう中で、これはちょっと作文でありますけども、「人に優しいまち」という作文を中学校3年生の子が書いておまして、最優秀賞をもらった作文であります、ちょっと紹介したいと思いますね。

途中からですが、「子供のころから自然とふれあい、たくさんの子供や大人と交流をもち育つ。そして高齢者になっても困ることなく、暮らしていける、そんなまちが「人に優しいまち」であるのだと思います。しかし若い大人たちから見て、実行したバリアフリーだけでは高齢者の人たちが住みよいまちであるとは言えないし、子供を持っていない人から見て子供のための施設や設備をつくったのでは子供を持つ人が必要としているものとは違うのかもしれない。年齢や、性別、立場などを気にせずに意見を言える場でなければ本当の「人に優しいまち」にはなりません。まちは権力を持った人たちが変えるのではなく、そこに住む人たちが変えるものです。そこに住む人たちの願いが叶い、「福祉を考えた人に優しい住みよいまち」を感じられるようなまちに住みたいと思います」というような中学校3年生の作文であります。最後、コメントをいただいて

終わりたいと思います。

○議長（福田 茂樹君） 吉田町長。

○町長（吉田 秀光君） 私たちの町には総合病院の、まずまずの規模の総合病院がございます。

そして、個人病院も内科の医院さんが2つございます。そして、歯医者さんも2つございます。

そして、福祉の施設もまず整っていると思っています。この人口規模に考えて、これだけの医療、福祉の施設がある町、その町の中で議員が今言われる、本当にあったかい、人と人の営みが生涯続いていく、そういう町を構築していく思いは皆さんと同じ気持ちでございます。これからも一つ一つのどんなに小さなことであっても、しっかり目を向けて皆さんと一緒に議論し、すばらしい町をつくり上げていく、その努力を頑張ってまいりたいと思います。作文の御披露ありがとうございました。

○議員（7番 清水 成真君） 終わります。

○議長（福田 茂樹君） 以上で清水成真議員の一般質問を終わります。

○議長（福田 茂樹君） 次に、4番、能見貞明議員の防災無線の戸別受信機についての質問を許します。

能見貞明議員。

○議員（4番 能見 貞明君） 防災無線の戸別受信機について、町長にお聞きします。

このたび防災無線デジタル化事業も着々と進み、戸別受信機の配布も始まったと聞きます。

そこで、この戸別受信機について若干質問させていただきます。

まず第1に、配布の方法であります、各区長さんに渡し、そこに各戸がとりに行くということですが、本当にこの方法でよろしいでしょうか。また、取り扱い方法とかを区長さんに任せるでしょうか。

第2に、こういった配布のやり方をしておいて、受信状況をどのようにチェックされるでしょうか。受信状況の良好でない地区、家庭への対処はどのように考えておられるでしょうか。

第3にこの戸別受信機の性能についてですが、私も戸別受信機を見せてもらいましたが、若干の不安を感じました。この性能で大丈夫でしょうか。前記に述べましたけれども、現在、戸別受信機を全戸に配布されておりますが、受信状況が正確に把握できないので、全ての受信機について受信状況を確認するべきだと思いますが、町長のお考えをお聞きしたいと思います。

○議長（福田 茂樹君） 答弁、吉田町長。

○町長（吉田 秀光君） 能見貞明議員の防災無線機の戸別受信機についての御質問にお答えをい

たします。

議員の御質問にありました防災無線のデジタル化整備工事は現在、各世帯に戸別受信機を配布し、電波の受信確認を行う段階になりました。

議員からは3点の御質問をいただきました。初めに、各戸への配布方法についての御質問でございます。先日の区長会でも説明させていただいたところでございますが、各集落への搬入は工事施工業者が各集落の世帯への配布準備が整うことを確認後、一括して集落公民館等へ搬入を行うこととしています。その後の集落の各戸への配布方法につきましては、それぞれの集落の実情、実態に応じて各区長さんにお任せすることといたしております。なお、各集落への搬入は昨日までにおおむね完了したところでございますので、御理解をいただきたいと思っております。

次に、受信状況をどのようにチェックをするのかということと、戸別受信機の性能について若干の不安を感じていると言っておられることにつきましては、危機管理担当課長から答弁をさせていただきます。

○議長（福田 茂樹君） 大村危機管理課長。

○危機管理課長（大村 哲也君） 町長のほうからございましたので、その点について御説明させていただきます。

受信状況のチェック、確認についてでございますが、このたびのデジタル化整備工事の施工に当たりまして、まず、デジタル化整備工事の実施設計において、机上での町内エリアの電波伝搬設計を行った後に、町内の各所で電波伝搬の調査と到達する出力の実地確認を行っております。次に、工事施工時には各集落内で試験電波の出力の伝搬調査を行い、各集落内での屋内通過を勘察した電波の到達状況を確認したところでございます。

また、議員御質問の受信状況の良好でない各家庭への対処はどのように考えているのかという点につきましては、戸別受信機を配布後に予定しております電波受信テストの結果を各集落での回覧板を用いて、全戸への受信確認を行うこととしており、この受信確認の回覧において受信できない等の事案が発生したときには施工業者様において個別に原因の解明、それから解決を行い、受信の徹底を図ることとしております。なお、この回覧での受信確認につきましても、先日の区長会で御説明させていただいたところでございます。

議員からは戸別受信機の性能について若干の不安を感じたというような御指摘もいただいております。戸別受信機の性能につきましては、基本的な機能を備えることはもちろんでございます。あわせて、防災ラジオとしての機能をあわせ持つこととしておりますので、御理解を賜ればと思っております。よろしくお願いいたします。

○議長（福田 茂樹君） 能見議員。

○議員（4番 能見 貞明君） 今、お答えいただいたですけども、戸別受信機のテスト状況とかそういう受信状況は回覧板を回すというようなことでして、それもやはり区長さんに任せるといようなことだと思うんですが、私もちょっと回覧板のあれを見ましたけども、名前と入るか入らないかぐらいしか書いてありません。それで、この前町長が言われましたけども、三朝町の防災無線は60メガヘルツと150メガヘルツの併用でいくと池田議員の質問に、6月議会での質問に答えられております。町民の生命とか財産を守る大事な戸別受信機を区長さんに任せるといのはいかがなものかなと私は思います。区長さんは行政の下請じゃないんですよ。これはやはり行政の方が工事業者をちゃんと持って行って受信状況を調べて、1軒1軒回ってするのが当たり前じゃないかなと私は思うんです。

これちょっと余談なんですけど、私のうちの電化製品壊れました。買いに行きました。そして、ちゃんと業者が持ってきて備えつけて、説明して、動作がしとるのを確認して帰りました。それが当たり前だと思います。倉吉はですね、1万7,000軒から8,000軒を1軒1軒業者が回って受信状況を確認して説明をしながら戸別受信機を置いております。そうするのが当たり前だと思いますけども、町長、どうでしょうか。

○議長（福田 茂樹君） 吉田町長。

○町長（吉田 秀光君） 重ねての御質問でございますが、先般の区長会でも申し上げてスムーズにそれぞれ搬入事業が行われていると理解をいたしておりますので、今、集落のほうからふぐあいとか、あるいは問題等が入ってきてるという状況ではございませんので、着々と進められているのではないかと感じて感謝をしておるところでございます。

○議長（福田 茂樹君） 能見議員。

○議員（4番 能見 貞明君） ふぐあいを感じないと言われましたけど、これ、そういう問題ではないと私は思っております。やはり、何遍も言いますけども、業者の方が回るべきだと思っております。

それで、次に、6月議会で町長が答弁されましたけども、この防災無線システムは信頼できる業者だから大丈夫だと、6月議会に答えられております。この受信機は、前、池田議員も言いましたけども、キャリアセンスというのは絶対に起きないものではないでしょうか。町長、どうでしょうか。

○議長（福田 茂樹君） 吉田町長。

○町長（吉田 秀光君） 戸別受信機のことでございますので、担当課長から答弁させます。

○議長（福田 茂樹君） 大村危機管理課長。

○危機管理課長（大村 哲也君） キャリアセンスは絶対に起きないかということでございますが、キャリアセンスの機能を付加した機械となっておりますのでございます。御理解いただければと思います。

○議長（福田 茂樹君） 能見議員。

○議員（４番 能見 貞明君） 実は私、ちょっと中国総合通信局ですね、前の電波監理局にちょっと聞いたですけども、150メガヘルツではキャリアセンスは絶対起きると言っております。このことを住民の方、町民の方に説明すべきというようなことも言っておりました。そういうことはこの前の区長会では説明されてませんか。

○議長（福田 茂樹君） 吉田町長。

○町長（吉田 秀光君） 担当課長から答弁させます。

○議長（福田 茂樹君） 大村危機管理課長。

○危機管理課長（大村 哲也君） 区長会でキャリアセンス云々あたりの御説明はさせていただいておりません。以上でございます。

○議長（福田 茂樹君） 能見議員。

○議員（４番 能見 貞明君） じゃあ、こういうリスクがあるというようなことは町民の方は知られないというようなことになりますけども、それでは、12月1日、ほんにこの間ですけども、私の村にも戸別受信機が配布されました。それで、この受信機をよく見とったら、スイッチの下の方に電源を切らないでくださいというのが張ってあります。これは前から張ってあったものでしょう、それともなんですか、後で張ったものでしょうかね。

○議長（福田 茂樹君） 能見議員、個別のこまいところを言われるのではなくて、町長に対してもう少し大局的なところから質問をお願いします。

○議員（４番 能見 貞明君） わかりました。済みません。じゃあ、これは電源を切らないということはどういうことでしょうか。

○議長（福田 茂樹君） 能見議員、一般質問ですので、これは。そのスイッチどうのこうのという質問は今回のにはちょっと適さないというふうに思います。ほかの質問に変えてください。

○議員（４番 能見 貞明君） はい。じゃあ、変えます。

先ほどスイッチのこと言うなって言われたんですけど、議長、スイッチ切っちゃったらこれ鳴らないんです、この機械、と思います。電気機器はみんなそうなんですけど、スイッチ切ったら鳴らないんですね。でも、倉吉の友人のところに行ったら、やはり倉吉の戸別受信機はありました。



ふだんの放送がやかましいから切っておるんだと言われました。でも、倉吉の放送は入るんです、J-A L E R Tとか緊急放送、戸別受信機は。三朝町は入らないんですか、スイッチ切っちゃったら。町長、お願いします。

○議長（福田 茂樹君） 吉田町長。

○町長（吉田 秀光君） スイッチ等のことでございますので、担当課長から申し上げます。

○議長（福田 茂樹君） 大村危機管理課長。

○危機管理課長（大村 哲也君） 今の、既にある従来の無線機にしましても、スイッチを切ってコンセントを抜かれるとJ-A L E R Tは入る仕組みにはなっておりません。倉吉の状況がどうなのかということについて細かく把握しておりませんのでお答えはできませんが、今の防災無線の戸別受信機につきましては、コンセントを入れてスイッチのところを入れておいてもらおうと、たとえ一番小さい音量になっていたとしても、緊急放送でありますとかJ-A L E R Tの放送は最大音量で鳴るといような仕組みの機械になっているところでございます。

○議長（福田 茂樹君） 能見議員。

○議員（4番 能見 貞明君） そうですね、スイッチ切っちゃったら鳴らんですわね、私もそう思います。電気機器はそうです。でもね、町長、ここに私、三朝町の特記仕様書というのを持っておるんです、ここにね、デジタルの。三朝町防災行政無線デジタル化整備事業の特記仕様書というのを持っています。昨年の7月にこれを出されて入札して、じゃあ、このとおりにつくってくださいよと、いわゆる三朝町の注文書ですけども、その中にどういうことが書いてあるかちゅうと、緊急、いわゆるJ-A L E R T、緊急放送をした場合は電源のスイッチ及びボリュームの位置に関係なく最大音量で鳴らんといけんって書いてあるんです。今、危機管理課長が言われましたけども、スイッチ切っちゃったら鳴らないんです、これ。でも、ここにはスイッチ切っても鳴れって書いとるんです。これはどういうことでしょうか。

○議長（福田 茂樹君） 能見議員、先ほど言いましたように、ここは一般質問の場でありまして、質疑の場ではありません。もう少し大局的な考え方で町長なりに聞いていただきたい。

能見議員。

○議員（4番 能見 貞明君） 済みません。これ先ほど言いましたけど、注文書ですので、計画書どおりにつくってありますでしょうか、この戸別受信機は。

○議長（福田 茂樹君） 吉田町長。

○町長（吉田 秀光君） 契約をして事業が進められてきております。完成までに、あと3月の半ばぐらいには完成をするのではないかと考えております。あらゆる契約約款等を含めて、しっか

り担当課において請負の工事業者の方としっかり詰め合って、住民の皆さんのために遺漏がないように努めるように申し上げておきたいと思います。

○議長（福田 茂樹君） 能見議員。

○議員（4番 能見 貞明君） 私がこれを読む限りでは、注文したもんがついてないと思います。注文したもんがついてないということは、普通だったら返しちゃいますわね、これ、ついてないよというので、ちゃんとしたもんを下さいということで返しますけども、これ、株式会社日立国際電気というのが納入しておりますけども、これ、もしも、スイッチを切っちゃったときなんかJ-ALERTが鳴ったときとかそういう場合、鳴らなんだときに、災害が起きてしまった、きょうも九州のほうですごい雨が降ってますけども、災害が起きてしまった、J-ALERTが鳴らなかった、緊急放送が鳴らなかった、そういう災害が起きた、犠牲者がいました、そういうの責任の所在というのはどうなるんでしょうかね。どこにあるんでしょうかね。

○議長（福田 茂樹君） 吉田町長。

○町長（吉田 秀光君） 戸別受信機の操作上のことでございますが、J-ALERTは確実に鳴るという方向で町民の皆さんもしっかりそのあたり、理解をしていただくように御説明、お願いをしてまいりたいと思います。

○議長（福田 茂樹君） 能見議員。

○議員（4番 能見 貞明君） じゃあね、オン、オフになっとなにかかわらずJ-ALERTは確実に鳴るように整備していただきたいと思います。これ本当、町民の生命、それから財産を守る大事な戸別受信機ですので、ぜひそういう、鳴らないということがないように整備をしていただきたいと、私はそのように思っております。以上で質問終わります。

○議長（福田 茂樹君） 吉田町長。

○町長（吉田 秀光君） いろんな機械、あるいはいろんな操作上の状況等で特徴的なものもあるかと思っていますので、御利用いただく町民の皆さんに、このようにコンセントをきちっと挿してJ-ALERTが鳴らなかったというようなことがないように努めていただくこともあわせてお願いをいたしたいと思っておりますし、非常に詳しいところの研究もなさっておりますので、御指導も賜りたいと思っております。

○議員（4番 能見 貞明君） 終わります。

○議長（福田 茂樹君） 以上で能見貞明議員の一般質問を終わります。

○議長（福田 茂樹君） ここで休憩をいたします。11時15分まで休憩といたします。

午前 11 時 03 分休憩

---

午前 11 時 13 分再開

○議長（福田 茂樹君） 再開します。

次に、6 番、山口博議員の三朝町版総合戦略についての質問を許します。

山口博議員。

○議員（6 番 山口 博君） それでは、三朝町版総合戦略について町長、教育長にお伺いします。

三朝町ではこのたび、三朝町版総合戦略を公表し、町報で広く町民の皆さんのもとへ届いていることと思います。私はこの総合戦略について何点か、その意図するところ、今後の実施に向けて町長並びに教育長に所見をお聞きしたい。

三朝町版総合戦略の策定に当たっては、関係各位の御努力は多としますが、個人的には具体的施策・事業が網羅的で目玉が見えにくいとの印象があります。さきに鳥取県内 19 市町村の総合戦略が出そろったとの報道があり、そのうちの何件かを見ましたが、大同小異の感はありますが、自分のまちを元気にしようとの意図は強く感じるものであります。

本町の総合戦略は対象期間は 5 年間となっており、まさに短期決戦であり、計画の実施に当たっては、事業の優先順位づけなどで町民の関心を喚起するなどの手だてが不可欠であると思えます。今回の総合戦略策定に関して、パブリックコメントを寄せた方が全部で 5 名しかなかったことは、町民にとって他人事であったと言わざるを得ません。立派な総合戦略を作成しても町民、関係者の絶大な支持、参画がなければ、絵に描いた餅に終わることが懸念されます。今後、この総合戦略の具体化に当たって、町民の皆さんの認知と協力が不可欠であり、町報で届けるだけでは理解と協力は得られないと考えますが、町長はこの総合戦略をどのように町民の皆さんに周知し、当事者意識の醸成をしていくつもりなのかお聞きしたい。

また、行政サイドだけでは多岐にわたる多くの事業をスムーズに実施することは不可能と考えますが、どのような実施主体を想定しておられるのか、あわせて町長に伺います。

次に、教育長に伺います。次代を担う子供の育成は重要な課題であり、総合戦略の基本目標で粋な教育で次代を担うみさきっ子の育成を掲げていますが、具体的には粋なみさきっ子とはどのような子供を想定しておられるのか。従前とはどのような点が異なるのかお聞きしたい。

三朝町にはフランス、台湾との海外交流など他町にはない教育環境もあり、これらを含め、すばらしいみさきっ子の育成に資する施策を推進されたい。以上です。

○議長（福田 茂樹君） 答弁、吉田町長。

○町長（吉田 秀光君） 山口博議員の三朝町版総合戦略についての御質問にお答えいたします。

まず、総合戦略の期間についてであります。戦略では今年度を初年度とする5年間、平成31年度までの対象期間と定めております。今回、総合戦略に掲げました具体的事業数といたしましては、全部で162事業に及んでおりますが、このうち、これまでの町の施策として展開してまいりました事業が96事業、今年度に新規事業として取り組みました事業が20事業、来年度以降、実施あるいは検討していきたいとしている事業が46事業となっております。山口議員御質問のように国や県、あるいは広域的な連携も視野に入れながら、短期的に効果的な事業をどのように展開をしていくかが求められているところでございますが、一方では、人口減少とそれに伴う活力あるまちづくりの課題は長期的な観点で捉えていかなければならない側面もございますので、両方の視点を大切にしていきながら、しっかりと地に足をつけて、施策の充実に向けてまいりたいと考えております。

山口議員からは今回の総合戦略の具体化に当たり、町民皆さんの当事者意識の醸成、事業実施における実施主体の想定について御質問をいただきました。議員御指摘のように、私も今回の総合戦略の具体化に当たっては、まずは町民皆さんに少しでも意識をしていただくことが何よりも大切であると考えています。町報等でお知らせするだけでなく、機会あるごとに現状や町の考え方をお示しするほか、意見交換などを通じて情報共有をさせていただきながら、この町で暮らしていく皆さんの問題として意識の統一に向けさせていただくよう努めていかなければならないと考えております。

また、事業を効果的に展開していくためには行政の働きかけだけでは限界があります。展開していく事業の内容により、関係者や実施主体は異なってまいりますが、町全体が潤い、将来にわたって幸せな町になるよう大きな視点に立って、施策の展開のために、町民の皆さんはもとより、地域の各種団体の皆さんなど、あらゆる関係の皆さんに御協力あるいは御参画いただくことが不可欠であると考えておりますので、今後とも御支援、御協力をいただきますようお願いを申し上げ、答弁とさせていただきます。

○議長（福田 茂樹君） 答弁、朝倉教育長。

○教育長（朝倉 聡君） 山口博議員の三朝町版総合戦略についての御質問にお答えします。

山口博議員からは、次代を担う子供たちの育成は重要な課題であるとの観点から、基本目標で掲げた粹な教育で次代を担うみさきっ子の育成とはどのようなみさきっ子を育てようとしているのかという御質問をいただきました。

このたびの三朝町版総合戦略の作成に当たっては、これからの人口減少を克服し、地方の創生に向けて本町に活気と活力を与えるには何より町の宝である将来を担う子供たちの育成が重要であり、子供たちが大人になっても三朝町に住み続けられるような魅力あるまちづくりにつなげていかなければならないと考えております。このため、基本目標の最初に「粹な教育」という表現を用いたわけですが、これは、これまで本町で行ってきた特色ある教育にさらに磨きをかけ、洗練していくことで本町に誇りと愛着を持ったみささっ子を育てていこうとする意気込みを示したものでございます。本町には、日本遺産に認定された三徳山や三朝温泉を初めとする豊かな自然環境が存在し、子供たちを見守る温かい地域があります。また、フランスや台湾といった姉妹都市との交流や国際交流員などによる外国語指導など、ほかにはない魅力のある事業や教育を行っております。今後は、こうした本町の特色を生かした教育を充実させながら、町の宝である子供たちに本町において次代を担うための生きる力の育成を図り、一人一人を大切にす教育と健全育成の実践を目指していきたいと思います。以上、答弁とさせていただきます。

○議長（福田 茂樹君） 山口議員。

○議員（6番 山口 博君） それでは、町長のほうにお伺いしたいと思います。

今回、非常に立派な総合戦略を策定されまして、私のほうからは網羅的だっていうことを言いましたけども、この多くの事業はぜひ実行しなきゃならないわけですけど、優先順位、短い期間にこれをやっていこうと思いますと、やはり優先順位づけということも大切になってくるんではないかなというふうに、事業の優先順位ですね、その点も大切になってくると思いますが、町長、その辺はどのようにお考えか。

○議長（福田 茂樹君） 吉田町長。

○町長（吉田 秀光君） 町がよくなっていくための事業でありますので、優先順位ということは、今のところ全てそれなりに大切だというふうに思っています。予算編成の段階で今年度の予算に盛り込めるもの、あるいは来年度の予算でないと盛り込めないもの、そういったことで着手する時期が早まるか、あるいは遅くなるかということはあろうかと思っていますが、それなりに項目を上げておりますのは極めて大切なことだと思っておりますので、やっていく構えから気を抜かないという方向で取り組んでいきたいと思っております。

○議長（福田 茂樹君） 山口議員。

○議員（6番 山口 博君） やはり計画は実行して何ぼのものだろうと思っておりますので、いい総合戦略の刷り物ができても、やはりその中身がいかにか実行されるかということが大事だろうと思っております。そのためには絵に描いた餅に終わらないということになってくると、例えば、これは随

時見直しもやるというふうなことも聞いておりますし、それからP D C Aサイクルと申しますか、見直しの検証なども順次やられるようになっておりますけれども、例えば、これは、今回策定したということは来年度から実行されていくことになるだろうと思っておりますけれども、そのときに、やはり私が一番懸念してましますのは、先ほども質問の中で言いましたけれども、パブリックコメントを寄せた人が5人しかいなかったということは、なかなか町民の方が他人事みたいな感じであったんで、余り気にしておられなかったと思っております。今回、町報で配りましたので、全戸には回っているとは思いますが、まだまだこの周知という点が非常にできていないのではないかな。先ほど町長は機会を捉えるごとにやろうと思っておりますけれども、例えば今、先ほど清水議員の質問のときに三徳地域協議会では説明をされたというふうに聞いておりますけれども、今後、具体的にどういうふうな取り組みを進めていこうとおられるのか、その辺をお聞かせいただけたらと思っております。

○議長（福田 茂樹君） 吉田町長。

○町長（吉田 秀光君） あらゆる機会を通して具現化していくための話し合いを展開をしていかねばいけないのではないかと考えています。地域協議会はもとよりであります。そのほかの各種団体、あるいはグループ、そういうところも捉まえていく必要があるというふうに思っています。そして、何よりも現在、村へ出かけての学習会というのを展開をしていますのは、教育委員会、社会教育サイドの人権学習については村へ出かけていっておりますので、このあたりに期待をする部分が大きくなってくるかなという思いも持っています。できるだけ村の単位まででも話し合いを展開をしていく、そういうところまで進んでいかないといけないのではないかと考えています。

○議長（福田 茂樹君） 山口議員。

○議員（6番 山口 博君） 今、町長が言われましたように、やはりきめ細かな対応が必要ではないかと思っております。逆に言えば、各集落のほうで説明を求めて、あるところは希望して、手を挙げてこいというような形のことも、来てくださいという形もやはり必要ではないかなというふうに考えます。そういう点ではできるだけきめ細かい、先ほど教育委員会の件もありましたけれども、やはりあれはちょっと人権教育という形のほうに重点を置いておりますので、時間の制約もありますので、やっぱり新たな会を設定してきめ細かくして、やはりこれは実行して何ぼのものって先ほど言いましたけれども、このいい計画が実行されて、三朝町がみんなが住みやすいまちになるということになるのではないかな。そのためには、労を惜しまないでいろんな住民の皆さんに広く、深く説明されることを希望したいと思います。

次に、教育長に先ほどの答弁について伺いますが、粹な教育という言葉に、ちょっと私は以前にもちょっとちらっと違和感があるということをお申し上げたんですけども、もちろんこれはいろいろ言葉の意味等も十分吟味された上での決定だったんだらうと思いますけど、その辺ちょっとお聞かせ願えたらと思いますけど。

○議長（福田 茂樹君） 朝倉教育長。

○教育長（朝倉 聡君） 粹な教育という言葉遣いの問題なんですけれども、教育大綱ということとで議会のほうにもお示ししましたんですけども、最終的な子供たちの目指す理想的な像というのは、優しくたくましい三朝の子供を育てるとというのが目標でございます。これは従来からの教育ビジョンというふうなことで目指していたわけですけども、それと変わるところがないわけです。ただ、特に答弁でも申し上げましたように、三朝町ならではのそういうふうな優しくたくましい子供を育てるための施策として、例えば、台湾、それからフランスへの派遣等の国際理解教育、それから郷土のすばらしさを学ばせる教育、そういうふうなものに磨きをかけて、より洗練された教育というものを実践しながら、そういうふうな最終目標でございます、そういうふうな優しくたくましい子供を育てるということに努力してまいりたいということで、粹な教育というふうな言葉を使わせていただいたところでございますので、御理解を賜りたいと思います。

○議長（福田 茂樹君） 山口議員。

○議員（6番 山口 博君） 従前とはどの辺が違うのかなというのが非常に気になるところでもあったわけですけども、三朝町の大きな宝であります子供たちが元気にたくましく、それから郷土を思う子供に育てるということは引き続き頑張っていたきたいと思っております。以上でこの質問は終わります。

○議長（福田 茂樹君） 次に、三朝温泉・三朝町のさらなる魅力アップをの質問を許します。

山口博議員。

○議員（6番 山口 博君） それでは、三朝温泉・三朝町のさらなる魅力アップについて、町長にお伺いします。

日本遺産認定第1号のすばらしいブランドを得た我が町は、他の市町村にとってはうらやましい存在であることは疑いのない事実であります。既存の観光資源である三徳山にさらなる付加価値が加わり、多くの観光客が訪れています。しかしながら、日本遺産の認定の恩恵を受けているのは一部にとどまっているのも事実であります。三朝町では多くの予算を投入してハードの観光施設の充実に努めてきました。が、これからはソフトの面の充実が重要であり、現在の三朝温泉の観光に関するソフトが十分でないことは誰も認めるところであります。また来てみたい三朝

温泉・三徳山、三朝町にするためには第一に誘客、おもてなしにつながるきめ細やかな案内情報の提供、新たな観光資源の発掘、既存資源のブラッシュアップの必要性があり、議会でも取り上げたところでもあります。町内の各集落にある神社めぐり、名水めぐり、滝めぐりなど磨けば大きな観光資源になるものがあり、これらを生かせば長期滞在に資すると考えます。

第2に情報発信・提供の強化であります。日本遺産に係る予算を活用してSNSでの発信、公衆Wi-Fiの環境整備が急がれます。多くの観光客を集めているところの例を見ると、猫がたくさんいるまちとか、ウサギがたくさんいる島など、興味のない人にとってはたわいない資源ですが、SNS、フェイスブックで情報が拡散して多くの人の関心を呼んでいるのも事実であり、本町も情報発信については、大いに見習うべきと考えます。

先般、中部総合事務所で開催された日本版DMO講演会で、講師は、それぞれの組織がばらばらにパンフの作成、情報提供することなく、一元化で観光地域づくりが必要であると力説されました。本町においても、観光三団体である観光協会、旅館組合、商工会の連携強化も町主導で進め、日本版DMO構築を考えてはどうでしょうか。さらには、外部の観光施策に精通した者のリクルートも一考の価値はあると思います。

次に、三朝町の観光に対して町内で温度差があることは、残念ながら事実であります。それは、三朝温泉、三徳山を除いて観光事業の恩恵を受けてない点にあります。さきに述べたように、町内各所にある観光資源を活用して、集落の活性化を図り、町内集落が少なからず観光事業の恩恵を受けられるようにしてはと考えます。現在、三朝温泉観光協会と称している観光協会を三朝町全体を見通した三朝町観光協会にするのも一法と思います。

以上、私の提言について、町長の所見をお伺いします。

○議長（福田 茂樹君） 答弁、吉田町長。

○町長（吉田 秀光君） 山口博議員の三朝温泉・三朝町のさらなる魅力アップをの御質問についてお答えをいたします。

本町の主要な観光資源であります三朝温泉におきましては、議会の皆様に御理解を賜り、平成25年度から3年間にわたって、三朝温泉開湯850年記念事業に取り組み、数々の事業を展開させていただきました。感謝をいたしております。また、この間、三徳山におきましても、昨年の国立公園編入に続き、ことしは第1号となる日本遺産に三朝温泉とともに認定されたことなど、本町にとりましては大変喜ばしい話題が続きました。町といたしましても、これらの出来事を契機としながら、今後さらに魅力あるまちづくりに向けてまいらねばならないと考えております。

このようなことを背景に、山口議員には、まず、町内各集落にある神社や名水、滝など観光資



源として生かせば長期滞在に資するのではないかという提案をいただきました。現在、三朝温泉を御利用いただく皆さんは、旅行形態の変化に伴って、その滞在目的も多岐にわたってきているものと感じております。私も、三朝町の観光振興をさらに進めていくためには、三朝温泉や三徳山以外にも町の中にはさまざまな資源があり、それらの資源を磨き、町の魅力として活用していくことが今後、さらに大切になってくるものと考えています。町民皆さんにも歴史あるそれぞれの集落や地域に資源となる宝がたくさん埋もれているということを再認識していただきながら、地域が元気になっていくための素材として活用していただくことができるよう、その取り組みや支援について検討してまいりたいと思います。

次に、情報発信・提供の強化について、SNSでの情報発信や公衆Wi-Fiの環境整備が急がれるとの御指摘をいただきました。現在のように、情報の伝達手段が大変次々と進化し、多様化していく中で、時代の要請に合わせ、情報環境の整備は避けて通れないものと考えております。ことし10月に策定いたしました総合戦略の中でも、観光地としてのおもてなしの観点で御提案いただきました事業は実施あるいは検討をしていく事業として位置づけておりますので、町民皆さんにも情報発信について御協力をお願いいたしますとともに、今後も御指導いただきたいと思いますところであります。

さらに、観光協会、旅館組合、商工会の連携強化や観光協会の名称変更について御提案をいただきました。観光協会、旅館組合、商工会は本町の観光商工を振興していくことを目的に設立され、それぞれの団体が持つ長い歴史の中で現在の姿となってきたものと思っております。そして、それぞれの分野においてその役割を果たされているわけですが、その目的は現在も変わっておらず、観光商工振興という同じ目的に向かって事業展開がなされておりますので、さらに連携を深め、最大限の効果を発揮していただくようお願いしながら、町の振興に向けてまいりたいと考えております。

なお、観光協会の名称につきましては、町全体を観光地として取り組んでいくことに向けていくという発想の中で、それをあらわす名称としての御提案であると思っております。三朝温泉や三徳山を核としながら、町全体が観光のまちとして発展していく中で検討していくものであると考えておりますので、御理解をいただきますようお願いいたします。以上で答弁とさせていただきます。

○議長（福田 茂樹君） 山口議員。

○議員（6番 山口 博君） 実は私、この前の日曜日、三朝を歩いておりましたら、観光客の方から、地図を持って歩いておられた方に道を尋ねられまして旅館の位置を聞かれたんですけど

も、その際に、三朝って見るとこないですねって県外の方に言われて、非常に残念な思いをしました。その際には、バイオリン美術館っていうのがありますよ、ぜひ行ってみてくださいというふうに御案内したわけですけども、やはり三朝町の温泉街を歩いてみても、今は空き家もたくさん出てきておりますし、なかなかそこで時間を潰すことができないということを非常に、これは町長も残念に思っておられる部分ではないかと思っておりますけども、やはり三朝の温泉に来て、あそこはよかったな、また行ってみたいなどと皆さんが思われるようなことの整備が最も急がれるのではないかなというふうに思っております。

先ほどいろいろ提案させてもらいました、滝めぐりであるとか、神社めぐりであるとかっていうことですけども、ここでさらにちょっと追加して提案したいのは、例えば、今回日本遺産に登録されたのは三徳山とそれから温泉をうまくつないだストーリーだったと思っておりますけども、やはり三朝にある神社もいろいろ成り立ちとか、祭ってある神さんによっていろんないわれがあるだろうと思います。そういうのもやはりストーリー化して、それを訪ねることによっていろいろと楽しいことが、いろいろ発見があったりできるような、あるいは滝であったりしてもやっぱりそういうことが必要ではないかなというふうに思っております。ということは、既存の観光資源をブラッシュアップするという事だと思っております。

先ほどいろいろ提案させていただきましたけども、行政のほうに、執行部のほうにこれをやったらどうですかと言うばかりじゃなくて、私は新しい観光資源の発掘については、例えば文化財などをチェックされることもあるでしょうけども、また、いろんな趣味をお持ちの方に集まってもらって発掘グループをつくったりするなんかことも一つの手ではないかと思っておりますけど、その辺どうでしょうか。

○議長（福田 茂樹君） 吉田町長。

○町長（吉田 秀光君） きのうも実は教育委員会の、教育長の計らいで、松尾芭蕉さんの10人目の弟子、河原晩成というお方が三朝町の下谷の出身であるということで、兵庫県の親族の方がおいでになりました。松尾芭蕉さんから巻物をいただいておりますその巻物や、そして「温泉疲れの小窓によれば時鳥」という、この三朝温泉を詠まれた歌が歌碑になって三朝温泉につくられてるんですけども、その歌碑が河原晩成さんの句だということの説明書きがなかったものでございますので、遺族の方がおいでになるということで、急遽、教育委員会においてその説明書きをつくっていただいて、大変喜んでいただいて、記念写真も撮られて、御親族の方が六、七人おいでになったんですが、お帰りになりました。そうした、非常に隠れたところに大変な文化人が我が町におられたというようなことがわかってくるわけですね。こういったあたりが、まだまだた

くさん紹介をする形が整っていないのではないのかなと思っています。

地方創生のソフトの部分になるのか、あるいは碑をつくってその中に字を彫り込んでというようなことが、ハードの部分ということになって、地方創生の予算が使えないということになるのか、今、県議会でも結構この問題が取り上げられておるんですね。私どもから考えると、歴史を掘り起こすっていうのは、これはもうソフトだというふうに思ってるんですが、歌碑にして字を彫り込んでするとハードだということになると、国はハードの予算はだめですと。ですから、地方創生は地方の発想で余りその交付金にとやかく言わずにやってくださいというのが初めの出発でなかったのかな、少し国が介入し過ぎてきておるのではないのかなということも最近思っていますんで、そういったあたりを県と一緒に克服をしていく努力をしながら、山口議員の言われるそういった説明、あるいは三朝神社にしても、お湯の手洗いがついている神社は三朝神社ぐらいなもの、全国的にも非常に珍しいと言われておりますんで、そういったことの紹介であるとか、いろんなことをもっともっと掘り起こしていかねばいけないのではないのかなと思っています。

また、南苑寺さんがなぜできたのかということについても、説明書きをずっと読んでいきますと、結構1時間半ぐらい、あの南苑寺コースも歩けるんですね。ですから、少し説明書きはもうちょっと大きな説明書きにしていく必要もあるのかなというようなことも思ったりもしています。そして、9月議会の一般質問で平井議員さんから、三朝町の1,000メートル以上の山、この山の連なっている状況というのはなかなか他にはないと言われているこうしたところの紹介のこととか、その中で、他にはない高山植物であるとか、いろんなものの紹介の仕方もいろいろあるんでしょうから、さらにさらにこの今回の大変たくさんの事業、計画をしておる、その中に多分いろいろはめることができると思っていますので、なお一層努力をしてみたいと考えております。

○議長（福田 茂樹君） 山口議員。

○議員（6番 山口 博君） 確かになかなか表に出てない資源というのはたくさんあると思いますんで、やはりそれらをきちっと掘り起こして、1日でも2日でもお客さんが滞在を延ばせるようなやはりストーリーなり、そういうものをつくる必要があるんだろうと思いますんで、ぜひその辺は積極的にこれから取り組んでいっていただかなきゃならないし、また、町民のそういうふうな専門性のある方たちを掘り起こして協力を求めるということも必要ではないかなというふうに思っております。

次に、私ども先般、総合事務所で開かれました日本版DMOの講演会に出かけました。実は先般行ったのは2回目だということでしたので、8月の10日に第1回の日本版DMOについての

講演会が総合事務所であったようですので、そのときに町長は出席されたでしょうか。（発言する者あり）

○議長（福田 茂樹君） 山口議員。

○議員（6番 山口 博君） 実はその際に、広域のいわゆる観光地じゃなくて観光地域をつくらうってということで、これはまさに私、先ほど言いましたように、三朝温泉、三徳山だけでなく三朝町全体を観光地域にするというふうな発想だったですけども、ちょっとこの話の大きい部分として梨の花温泉郷がDMOについて考えていくということが、この間、新聞にも倉吉の市長が提言しておられましたけども、これについて町長、どのように感じておられるか。

○議長（福田 茂樹君） 吉田町長。

○町長（吉田 秀光君） 梨の花温泉郷協議会の今後の進展等についてのことを広域連合でも検討いたしておりますが、梨の花温泉郷の役員でもございます副町長のほうから、そのあたりの状況を説明をしていただくようにしたいと思っておりますが、さらに発展をして観光客を呼び込んでいく、そういう方向まで手をかけていくような方向を現在目指して検討いたしております。詳細は副町長から申し上げます。

○議長（福田 茂樹君） 岩山副町長。

○副町長（岩山 靖尚君） 私、梨の花温泉郷の理事に出させていただいております。梨の花温泉郷を現在の組織から財団組織に変えるということで、一応法人登記等をなされて、そういう団体に変えると。収入事業等も、旅行関係ですけども、しながら、現在の部分をまた拡大しながら事業を進展させていく。また、名称も一部わかりやすい、鳥取中部っていいですか、そういう名称も変えながら、一応ことし、今年度中に会の立ち上げを考えとるようでございます。やはり観光の部分を中部で一緒になって盛り上げるということで、今以上に活性化できる組織になればと思っておる次第でございます。以上でございます。

○議長（福田 茂樹君） 山口議員。

○議員（6番 山口 博君） 失礼な言い方もわかりませんが、梨の花温泉郷の活動が非常に活発かっていうと、ちょっとそれがなかなか見えづらいところがあるのも、私のちょっと個人的な考え方かも知れませんが、そのように思っております。やはりその辺をがっちり固めて、この中部を活力あるものにするためには、このDMOっていうのはいろいろ話聞かせてもらうと、観光業者だけじゃなくて、農林業から全部ひっくるめて町全体あるいは地域全体で観光を盛り上げていこうという発想になっておりますので、ぜひそういうことも必要だろうと思います。

実は三朝の若手の観光関係の人たちにこのDMOについての知識がまだ十分に行き届いてない

ようなことも聞きましたので、先ほど副町長もそういう会に出られたということになりますと、やはり地元の人たちにDMOとは何ぞやということも十分認識していただく機会をつくらなきゃならないんじゃないかなというふうに思います。三朝町の地域を活性化の一助でもありますので、皆様についてもやはりこれから検討していく必要があるのかなというふうに思っております。

梨の花温泉郷の話もですけども、まず最初にはやっぱり地元の足固めということで、観光三団体の強化といいますか、連携強化ですね、この辺について町長、先ほども言われましたけども、具体的な部分はなかなか難しいところかもしれませんけども、リーダーシップを発揮していただいたらと思いますが、その辺どうでしょうか。

○議長（福田 茂樹君） 吉田町長。

○町長（吉田 秀光君） 先般も商工会の懇談会が行われました。それぞれが懇談会を開催されていくわけでありますが、いずれにしても、交流人口、1日1,000人を目指すということであります。総合戦略の中ではっきり数字を実は入れてるわけです。夕方1,000人おいでになって、明るくなる日の朝お帰りになる方も同じ方ですから、ダブルで1日2,000人という人の動きがある町でございますので、こういったあたりを今までよりもっと重要視して捉えて、いろんな町の情報をお伝えをしていく、そういうことにも努力をしていかなければいけないと思っております。

議員お説のように、観光三団体は大きな役割を演じていただいておりますので、なお一層提携をして町としても御支援申し上げていきたいと思っております。

○議長（福田 茂樹君） 山口議員。

○議員（6番 山口 博君） やはり三朝町が元気になるためには、まず基本であります観光だろうと思っておりますので、その点でその辺を活性化するための手はあらゆる手段を講じる必要があるだろうと思っております。三朝町が元気になるためにいろいろ提言させてもらいましたけど、それがそれぞれに目配りをしていただきながら事業を進めていただいて、三朝町の活性化、より一層活発になるように頑張りたいと思います。以上で終わります。

○議長（福田 茂樹君） 以上で山口博議員の一般質問を終わります。

○議長（福田 茂樹君） ここで休憩に入ります。再開を13時15分といたします。

午前11時56分休憩

午後 1時13分再開

○議長（福田 茂樹君） 再開します。

次に、3番、池田雅俊議員の三朝町の観光産業の発展に向けての質問を許します。

池田雅俊議員。

○議員（3番 池田 雅俊君） それでは、町長にお伺いをいたします。

三朝町の主産業といえば温泉をメインとした観光産業であることは誰もが認めるところであり、現に三朝温泉という武器をフルに活用して発展してきたことは否めない事実であります。50年代後半から始まった高度経済成長期から80年代後半のバブルがはじけるまでの30年間は、それこそ右肩上がりの発展を遂げてまいりましたが、その後は坂道を下るがごとく衰退の一途をたどりました。旅行形態の変化、価値観の多様化など、数多くの要因が考えられますが、一言で言うと、市場である顧客への対応が、十分にそのニーズに応えられなかったことが上げられるでしょう。そこで、いま一度市場調査を行い、顧客の志向、旅行形態、予算等きめ細かくチェックし、多様化しているニーズに応えられる体制を築き上げるべきであると思いますが、町長の認識を伺いたい。

また、近年の大きな流れとして健康志向というものがありますが、町内の豊かな自然環境を一つの資源と捉え、若杉山、高清水高原、中の谷の名水や滝、それに木地師の木工品、そして昨年7月に閉鎖されたゴルフ場など、観光客、レジャー客を呼び寄せるに十分過ぎるぐらいの要素を持っているわけであります。これらを十二分にフル活用していく上でも、今の三朝温泉観光協会をさらに充実させていくためにも、三朝町観光協会と改変していくべきであると提案するものがありますが、町長の考えを示していただきたい。

○議長（福田 茂樹君） 答弁、吉田町長。

町長。

○町長（吉田 秀光君） 池田雅俊議員の三朝町の観光産業の発展に向けての御質問にお答えをいたします。

本町の主要産業でございます温泉をメインとした観光産業は、議員御指摘のとおり、バブル絶頂期と比較し、経済や社会情勢等の変化に伴い、宿泊客数や旅館、商店数などの動向は残念ながら減少傾向を示してまいりました。しかし、現在でも三朝温泉には毎日約1,000人の宿泊客にお越しいただいており、ことしはその動向が若干ではありますが上向き傾向を示していることは、関係者の皆さんの御尽力のたまものであると敬意を表しているところであります。

議員には、宿泊客数の減少は顧客ニーズに応えられなかったことが要因の一つではないかという御指摘のもと、市場調査を行い、多様化しているニーズに応えられる体制を築き上げるべきで

あるという御意見をいただきました。私も、温泉観光地として本町を訪れていただく皆さんのニーズを的確に把握し、それに対応し、満足度を上げていかなければならないと考えておるところであります。各旅館におかれましても、日々の接客の中でニーズを把握しながら、特色あるサービスや料金設定をされるなど御努力をされておるところであります。

このような状況の中、昨年末、観光庁の申し出により三朝温泉の魅力調査が行われ、先月その結果をまとめた報告書が届いたところでございます。この調査は、三朝温泉の魅力は何であるのかを把握することによって、今後の観光資源の磨き上げや温泉地としての取り組む方向性を地域の共通認識としていくことを目的に行われたもので、三朝温泉に複数回宿泊された方、約1,000人を対象として行われたものでございます。

調査結果の一端を御紹介いたしますと、リピーターの方の居住地は6割が、おいでになった皆さんの6割が近畿地方で、2割が中国地方となっており、年齢層としては8割近くが50代以上であることが見えてきました。また、旅行形態としては1泊の方が8割強を占めて、1泊当たりの料金は1万5,000円以上の高価格帯を好まれる方が半数近いという傾向が示されております。移動手段としては、7割以上の方が自家用車の利用でありました。そして、特筆すべきは、旅行の目的として8割以上の方が三朝温泉にお越しいただくことを第1目的として上げられており、その理由としては泉質のよさや、旅館でのおもてなしや食事、温泉街の落ちついた雰囲気であると答えられています。さらに、一番初めに訪れたきっかけについては、6割以上の方が口コミであったと答えられているという結果が出ております。以上は調査結果の一部でございますが、今後もこのような結果はもとより、観光商工関係者だけでなく、地元の皆さんなどからの御意見や御提案も貴重な情報として寄せていただきながら、情報共有を図り、進むべき方向性を確認しながら発展に向けてまいりたいと考えます。

また、池田議員からは、町内の豊かな自然環境を初めとしたさまざまな資源をフル活用し、町全体で観光地として取り組み、観光産業の発展に向けてはどうかという御提案をいただきました。この件につきましては、さきの山口議員のときの答弁の中でも申し上げておりますが、今後も、本町の発展は、観光にかかわる皆さんだけでなく、町民皆さんとともに町全体の振興と魅力ある町づくりにつなげていきたいと考えておりますので、さらに御支援を賜りますようお願いをいたします。

以上、申し上げます、答弁とさせていただきます。

○議長（福田 茂樹君） 池田議員。

○議員（3番 池田 雅俊君） 先ほど山口議員も似たようなことを質問されて、それをちょっと

引用されたようですけども、先ほどの山口議員に対する質問の中で町長は、観光三団体のいわゆる充実を図りながらという答弁をされたと思います。私は、充実というよりも、この三団体をいかに連携させていくかというのが非常に重要な問題だと思うんです。いわゆる町主導でこの三団体に3つとも名前を連ねておられる方がおります。その方は、例えば観光協会ではこういう意見だけど、商工会ではこういう意見持っとるという、違ったことが起きてきよるですね。それが非常に850周年の記念イベントをやるにしても、そこが何か足の引っ張り合いみたいな、いうようなことを聞いたことがあるんですけども、その3つの団体がうまく連携していくようにするためのことを町指導でやっていくというお考えはないでしょうか。

○議長（福田 茂樹君） 吉田町長。

○町長（吉田 秀光君） それぞれの団体の連絡あるいは意識の共通、そういった面を今以上に町として図っていく思いはないかというお尋ねであったと思っています。そういった思いを、議員が言われるような同じ思いを持っていますので、今後そういった機会をつくる努力をしていきたいと考えます。

○議長（福田 茂樹君） 池田議員。

○議員（3番 池田 雅俊君） そうしますと、次に、この質問書の中に書かせていただいたのは、若杉山、高清水高原、中の谷、それから木地師である木地山地区のことを上げさせていただきました。これ、なぜここを上げたかといいますと、いわゆる三徳、小鹿地区、それから三朝地区、ここはいわゆる観光資源といいますか、メインになっところでありまして、あえて出した。それで、なぜここを上げたかといいますと、若杉山あたりとってみますと、これは9月議会だったと思いますけども、平井議員が、ウォーキングに非常にいいところだということ言われました。私も実際に歩かせてもらいました。非常に、田代から木地山に抜ける道じゃなくて、ずっと、途中行きどまりになっところはあるんですけど、あそこあたり歩かせてもらおうと非常に森林浴もできて、心が落ちつくといいますか、非常にいいところ。9月の平井議員の質問の中にもありましたけども、いわゆる1,000メートル級の山がうまく連なっって、トレッキングにも非常にもってこいだ。私はそのトレッキングとか山登りというのが非常に苦手なんですけど、山歩く人にとってみたら非常にいい環境であると。こういったものを使わない手はないんじゃないか。そのためにも、若杉山というのも、田代地区を一つの起点にして考えれば、幾らでも観光資源になるというふうに思うわけでありまして。それと、この自然をフルに利用した、いわゆる自然体験学習的なものを、あそこを中心に、田代の公民館がある程度広さがありますので、例えば都会の学校のところで今、田舎体験というのが非常に注目されております。そういったのを誘致すると



か、そういったようなことをどんどんやっていくべきじゃないかと思うんですけども。そういったようなことがもし起これば、いわゆるこれも観光資源になると思うんです。

それと中の谷、これは山口議員の質問の中にもありましたけども、非常に名水であるとか滝であるとか、あそこの名水、私も3カ所ほど飲ませてもらいました、それから馬場の滝というのも行かせてもらいました、非常にいいところです。こういうのも、ただ知る人ぞ知る、地元のもんだけが知っとるっていうのにはちょっともったいないじゃないか。あれも観光資源に十分になり得ると思います。それを、例えば福田のところに非常な立派な公民館がありますが、あそこを道の駅とか、中の谷休憩所みたいなことにしていろいろなものを売ったりとかいうことをすれば、高勢地区、中の谷の観光にもつながっていくというふうに考えられます。こういったことを踏まえて、いわゆる町全体としての観光協会が必要じゃないかというふうに提案させていただいたんですが、町長、その辺どのようにお考えでしょうか。

○議長（福田 茂樹君） 吉田町長。

○町長（吉田 秀光君） 三朝温泉観光協会の名称のことにつきましては、当該三朝温泉観光協会がございますから、その役員等の皆さん、さらには会員の皆さんの御意見等もしっかり伺っていきながら検討を加えていくべきことではないかというふうに思っていますので、名称のことは今の段階としてはちょっと横しに置かせていただいておりますが、池田議員のおっしゃる、中国山脈の峰々をずっとつないで考えていくことが大切ではないかとおっしゃっているお説には私も同感であります。そして来年度、議会の皆さんの大変な御理解をいただいて、曹源寺から小河内への林道を開設してまいりました。先般、助谷トンネルの貫通も終わって、トンネルの中の工事も大体終わりに近づいた状況でございます。来年は完成いたします。とすると、池田議員が今言われる、三徳、小鹿、中の谷、そして竹田の谷ということで、三角形の底辺を通るような形で曹源寺へ行くことが可能となってまいります。その林道の周辺にはクマタカの巣が確認をされていますし、大空を、広げると2メートルぐらいな羽を広げて飛ぶクマタカでございますので、クマタカを見るだけでもすごい観光資源になるんだろうということも思っています。そういう中で、大山隠岐国立公園を三徳山まで延ばして、国立公園に三徳山を飛び地で指定をいただいているわけでありまして、岡山県の人形仙あたりも含めながら考えていくと、今後1,000メートル級の山をつなぐ、非常に豪快な山岳コースが開けてくるのではないのかということも思っています。平井議員は9月の議会でそのことを提唱され、そして、岡山県の人たちが自分たちの山のようにしてきてるのを三朝町の者が知らん顔してるのはおかしいではないかというふうに思って質問を受けたところでございまして、ぜひ、その1,000メートル級の山の中に

長い年月かけて生き続けてきたすばらしい高山植物あたりも息づいていますので、しっかりとそのあたりも含めて、町全体の宝がどういうところに、どういうものが、どうあってということを明らかにしていく段階に入ったのではないかと、地方創生のメニューの中にしっかりと捉えていくべきであるというふうに思っておるところであります。以上です。

○議長（福田 茂樹君） 池田議員。

○議員（3番 池田 雅俊君） この質問の最後なんですが、昨年7月に三朝のゴルフ場が閉鎖になりました。非常に私も以前ずっと、1カ月に4回も5回も三朝のゴルフ場を利用させてもらうぐらいゴルフが好きで行ってましたけども、三朝のゴルフ場が閉鎖になってから、非常にその当時の友達あたりも何とかこのゴルフ場なんだかという声をたくさん聞きます。いろいろ調べさせてもらいました。そうすると、三朝のゴルフ場が、年間大体2万人を超えるお客さんが来られていたようです。それで、この2万人の方が今はもう三朝ではなくて、それこそ倉吉の向山であるとか、それから人形峠越えて奥津であるとか、そういったところにゴルフをしに行っております。11月の初めごろにゴルフ場が上がって、ずっと中といいますか、コースを見て歩きました。確かにすぐにはゴルフ場として使えるような状態ではありませんが、このゴルフ場がやはり三朝町、三朝温泉に果たしてきた役割というのは非常に大きいと思うんですが、いつだったか全協で牧田議員が、町長、ゴルフ場買っちゃえやというようなことを言われておりましたが、町としてそういうような、ゴルフ場を町として手にしてというようなお考えは、今は町長の頭の中にはございませんでしょうか。

○議長（福田 茂樹君） 通告にありませんけど。

○議員（3番 池田 雅俊君） ゴルフ場のことですから、お願いします。

○議長（福田 茂樹君） 吉田町長。

○町長（吉田 秀光君） 以前も議員からゴルフ場の問題等を心配をされてお尋ねをいただいた経緯もございますので、今の段階の思いを言わせていただきますと、債権者会議が現在続いております。そうしたことをじっと注視しながらということ为先回も申し上げていますので、今もなおそういう状況にあるというふうに申し上げるのみでございますが、思い起こせば、昭和30年代の初めにできたゴルフ場でございます。今の規模で考えると、大体半分ぐらいな面積しかありませんので、正規の大会ができないという一つの大きなネックがゴルフ場としてはあるわけですが、非常に長い年月にわたって三朝町に対して、ゴルフ場利用税等含めて貢献をいただいた施設でございます。大切な状況をきちっと踏まえて、債権者会議等を注視していかなければいけないと思っておるところであります。

○議長（福田 茂樹君） 池田議員。

○議員（3番 池田 雅俊君） 実は町長、私の友人にいわゆる一般的にいう潰れた会社とかを再建させる会社をやってる人がおまして、それで、その人に本当にボランティアで三朝温泉観光誘致支援企画書というやつをちょっとつくってみてくれ、この中にゴルフ場、これをメインにしてつくってくれということをお願いしました。そしたら1カ月ほどでつくってくれたですけども、非常に、ゴルフツーリズムというのがありまして、いわゆるゴルフを使った旅行ですね。このゴルフツーリズムで訪れるお客さんというのは一般の観光のお客さんよりも20%から30%お金を多く落としていってくれます。ということは、三朝温泉とコラボしてゴルフ場をすると、それなりの効果が上がる、これは全国一律的にそういう流れになっておると。それと、この人いわく、もっとネットをうまく利用してそれを宣伝すれば、もっともっとお客さん来る。何でか、日本遺産がある、温泉がある、そういったものを全部持つところというのは全国でも非常に少ないんだということを言っとる。もしよろしければ、これ町長、差し上げますので、ぜひ参考にして三朝の温泉発展のために尽くしていただきたい。一言、最後をお願いしたいと思います。

○議長（福田 茂樹君） 吉田町長。

○町長（吉田 秀光君） 先ほども申し上げましたが、いろんな状況等をきちっと踏まえていく段階であるというふうに思っています。なお、資料については拝見させていただきたいと思います。

○議員（3番 池田 雅俊君） 終わります。

○議長（福田 茂樹君） 次に、三朝町の目指すべき教育体制の質問を許します。

池田雅俊議員。

○議員（3番 池田 雅俊君） 続きまして、教育長と町長に、三朝町の目指すべき教育体制ということで質問をさせていただきます。平成30年に現在ある3つの小学校を統合することが決まり、着々とその準備が進められているようですが、その中で校舎の問題、通学の問題、PTAの問題などが検討されていると聞きます。確かに、どれも重要な問題で、全て真剣に取り組まなくてはならない問題であると思いますが、私の耳にだけ伝わってこないのか、あるいは話し合われていないのか、問題として取り上げられていないのか、統合された小学校の教育理念、教育体制、教育方針といった学校の根幹となる部分が置き去りにされているのではないかという危惧の念があります。義務教育の部分であるから、国の方針に沿って通り一遍の学習指導要領どおりに、教員に任せておけば事足りると考えておられるのではないか。子供を学校に通わせる保護者にとって一番気掛かりは健康と学力であることは、子供を育てた経験のある人全てが一致するところがあります。教育長の所見をお伺いいたします。

このたび、統合に関して、東小、南小における超少人数学級が解消されることだけを喜んでいては、三朝町の教育に明るい未来は望めないと思います。県単位、市町村単位での取り組み方一つで、学校の姿、子供たちの姿をも変えられるものであります。そこで提案であります、統合された小学校の目指す姿として、全国テスト日本一という方針を打ち出してはいかがなものでしょうか。教育長の考えをお聞きしたい。

子供たちは、無限の可能性を秘めた宝物であります。町として、学校として、教員として確固たるポリシーをもって臨めば、子供たちは必ず答えを出してくれます。不十分な学力は、本人や保護者に心の病を引き起こさせる事がよくあります。片や、十分な学力はさらなるステップにつながり、夢という大きな計画をもたらしてくれます。三朝に生まれてよかった、三朝の学校に通えてよかったと思われる教育を目指すべきであると思いますが、町長にこの考えの是非を問うとともに、その教育への思いを伺いたい。

○議長（福田 茂樹君） 朝倉教育長。

○教育長（朝倉 聡君） 池田雅俊議員の、三朝町の目指すべき教育体制についての御質問にお答えします。

初めに、3つの小学校が統合して誕生する新しい小学校の教育理念、教育体制、教育方針についてどのように考えているのかという御質問をいただきました。

議員御指摘のとおり、子供たちの健康と学力の向上は、小学校教育を推進する上で最も大切な課題の一つであると認識していますので、新小学校では、健やかな体づくり、確かな学力の習得に取り組んでいかなければならないと思っています。そして、この2つの課題とあわせて、子供たちの友達や周りの人たちを思いやる心、正義感や倫理観などの豊かな心を育てる教育にも取り組む必要があると考えています。新しい小学校では、変化の激しいこれからの社会をたくましく生きていく力を身につけさせるために、子供たちの生きる力、つまり確かな学力、豊かな心、健やかな体のバランスのとれた力を育てる教育を推進していく所存ですので、御理解を賜りますようお願いいたします。

次に、統合された小学校の目指す姿として、全国テスト日本一という方針を打ち出してはどうかという御提案をいただきました。小学校教育を推進する上では、児童たちの学力の向上は最も重要な課題の一つですので、御提案の趣旨を理解するものであります。

全国テストは、正式には全国学力・学習状況調査という名称で、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握、分析し、さまざまな教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るため、平成19年度から毎年国が対象学年の小学校6年生と中学校3年生の児童生徒に対して実施している

ものです。調査の内容としては、教科に関する調査では、国語、算数または数学の教科に加えて、3年ごとに理科の教科も実施されます。国語、算数等の教科では、それぞれ主として知識に関する問題と活用に関する問題が出題され、調査結果は学校における児童生徒への学習状況の改善等に活用されています。また、生活習慣や学校環境に関する質問紙調査では、児童生徒に対する調査と学校に対する調査が行われ、その調査結果は生活習慣の改善を初めとする児童生徒への教育指導等に役立てられています。

三朝町の各小学校においても、学校ごとに調査の結果をきちんと把握しており、その調査結果をもとに授業の改善を図ったり、児童の学校や家庭での生活習慣の改善等につなげています。具体的には、町内の学校ですけれども、一定期間、放課後に全教員が上級生の学級に出かけ、プリント学習等の指導を丹念に行った結果、調査の正答率が飛躍的に向上した例もあります。新しい小学校においても、全国学力・学習状況調査の結果をきちんと把握した上で、児童への学習状況の改善や教育指導の充実を図っていくよう学校に対して指導してまいりたいと考えていますので、理解いただきたいと思います。以上、答弁とさせていただきます。

○議長（福田 茂樹君） 答弁、吉田町長。

○町長（吉田 秀光君） 池田雅俊議員の、三朝町の目指すべき教育体制についての御質問にお答えします。

子供たちは、町のかげがえのない財産であり、三朝町の未来の姿そのものであると申しあげても過言ではないと認識いたしております。そして、この将来の三朝町を担っていく子供たちを、心身ともに健やかに育てていくために、私たちの町の特徴を生かした教育を充実させ、学力の定着と想像力豊かな児童生徒の育成を図っていかねばならないと考えています。

議員からは、三朝に生まれてよかったと思われる教育を目指すべきであると思うが、町長はどのように考えるのかという質問をいただきました。議員の提案に共感するものであります。議会、教育委員会と連携を深めながら、本町の教育のさらなる充実を図っていかねばならないと強く思っています。議員から指摘していただきました、確かな学力、健やかな体に、豊かな心を加えた、知・徳・体のバランスのとれた力を身につけさせる教育を推進し、優しくたくましい三朝の子供を育てていきたいと考えています。

また、三朝に生まれてよかったと思えるようにするため、郷土に学び、郷土を誇れる子供を育てる教育に力を入れていかねばならないと思います。ふるさと三朝町の自然や歴史、伝統を守り、受け継ごうとする子供、地域や郷土に誇りと愛着を持ち、その発展に貢献しようとする子供を育てるとともに、国際的な見識と視野を持ち、社会の変化に対応しながら地域の資源を町の

発展に効果的に活用していける人材を育成する必要があると認識しておりますので、御理解、御協力を賜りますようお願いを申し上げて、答弁とさせていただきます。

○議長（福田 茂樹君） 池田議員。

○議員（3番 池田 雅俊君） 全国学力テストですね、秋田県がトップであるというのは教育長も町長もよく御存じだと思います。この秋田県の取り組み方というのは一つ参考になると思うんですが、いわゆる子供たちが自主的に勉強をしていくようになるまでに、今はそういう姿があるんですが、どういうことがあったかといいますと、いわゆる放課後、先ほどくしくも教育長のほうから出ました、教員が教室に出向いて行って上級生と一緒に勉強を見てやる、こういった姿があると、子供たちは、これまでわからなかったことがわかったというときのうれしさというのは非常に大きなものがあります。これが大きなステップ、第1段階、これが非常に努力して秋田県はそれを築き上げていったという姿を聞いております。教育長のほうから先ほど、そういったような形で教員、上級生が見てやれば正答率がアップしたということがあります。これは、子供たちは必ずそういった答えを出してくれるわけです。ですから、いわゆるシステム、体制ですね、そういった学力アップの体制というものをつくっていけば、必ずや答えが出てくるわけですから、それはわかっておるわけですから、そういったものをつくっていかなくてはならない、そういうような方向に、行政指導でも何でもいいですから、そういうふうに行っていくべきだというふうに思いますが、町長、どのようにお考えでしょうか。

○議長（福田 茂樹君） 吉田町長。

○町長（吉田 秀光君） 先ほど教育長も答弁で申し上げておりますように、そうした柔軟な対応をしていくことが非常に大事ではないのかなということを思っております。秋田の県庁を訪ねて、県の職員の方に、日本一を何年も続けておられるというのは大変なことなんだろうと、私たちが町村会で尋ねました。ところが、県の職員いわく、一生懸命ですからねと、まことに短い言葉でございましたけど、見事な答弁だなど、お話だなどというふうに思って感心して帰りました。一生懸命だと、それは県も市町村教育委員会も学校も、そして家庭も子供も一生懸命だと、こういうことでもございました。非常に感銘を受けて帰りました。そうした過程そのものも想像できるような、そういう形に町全体がなればすばらしいことだと思います。

○議長（福田 茂樹君） 池田議員。

○議員（3番 池田 雅俊君） 去年から私も中学校のほうに、土曜学校というのの講師という形で行かせていただいております。去年、中学校3年生、三朝中の3年生を見て、非常に驚きました。何かというと、学力が非常に高いんです。びっくりしました。私は主に数学と英語を見てお

りましたけども、えっ、本当でこんなに理解が進んでるの。それが、ことし行きました。もう、松浦校長に、池田先生、ことしは手ごわいですよという言葉が言われます。めちゃくちゃ手ごわかったです。進んでないです、学力が。たった1年間の差でこういうふうになっちゃうんです。それは何か。それで、私なりにいろんな、何なんだろうと。これはある保護者に、3年生の保護者に聞いたところ、1年生のときのある教科の先生が何か生徒のいわゆる好きな先生でなかったというか、生徒を理解してない先生だったらしいんです。それでその教科がまるでだめに近いような状態になると。私は、町長さっき秋田県、一生懸命と。一生懸命というのは一つ生きる、懸命じゃなくて、一つところ、一所懸命でないとだめだ。一つのところに命がけでやる、そういうものが私、本当の教育だと思うんですが、町長、どんなふうにお考えでしょうか。

○議長（福田 茂樹君） 吉田町長。

○町長（吉田 秀光君） お説のとおりです、はい。

○議長（福田 茂樹君） 池田議員。

○議員（3番 池田 雅俊君） よく保護者の方が、うちの、まあ俺の子だけえ、大した、という言葉をよく聞きます。ところが、ことわざにもありますように、トンビがタカを産むこともあるわけです。子供たちの脳というのは非常に柔軟で、いろんなことを理解できます。そこで、先ほど町長も言われました、そこで一生懸命、一所懸命になるには、まず家庭も保護者も教育してかからないけん。そういった施策を行政として施していただきたいんです。町長、その辺どんなふうにお考えでしょうか。

○議長（福田 茂樹君） 吉田町長。

○町長（吉田 秀光君） 教育委員会と一緒に、深く掘り下げて検討してまいりたいと思います。

○議長（福田 茂樹君） 池田議員。

○議員（3番 池田 雅俊君） 教育長にも同じ質問を。

○議長（福田 茂樹君） 朝倉教育長。

○教育長（朝倉 聡君） 全国テストの中に、教科の学力をはかるテストとあわせて、児童生徒の生活習慣をはかる設問があります。その中で家庭での生活の状況、朝御飯きちんと食べるかとか、きちんと夜寝てるとか、勉強してるとかという調査もありますので、そういうふうなものも参考にしながら、学校、家庭それから本人が連携しながら、よりよい学校生活を送り、学力向上を目指すというふうな体制を築いてまいりたいと思います。

○議長（福田 茂樹君） 池田議員。

○議員（3番 池田 雅俊君） 通告にはございませんが、ちょっと私見を述べさせていただきます。

○議長（福田 茂樹君） 通告にはないですか。

○議員（3番 池田 雅俊君） 実は、教育立国といいますか教育立県、あるいは教育を主とする町をつくれれば、町長、どうなると思いますでしょうか。こういうことを言うたらあれかもわからん、私の私見を述べます。人がやってきます。前にもちょっとお話ししましたが、進学校と言われる高等学校、中高一貫をしてる学校があります。生徒募集をしてる学校は1校もありません。ところが、何倍もの生徒が集まってきて、そこを受験します。それは何でか、その学校に行けば東大に行ける、京大に行ける、早稲田に行ける、慶応に行ける、その道が保証されるわけです。もちろん、保証されるって何もせんかったらだめですけども、そこでしっかりした努力をせないけません。ところが、三朝に来てそういったシステムができておるといふ町であれば、人が集まってくると思います。これは私の私見です。通告にも載せてませんけども、そういった、教育を全面的に考えとる、そういう町であるということを出せばそういうふうになってくると思いますけども、最後に町長の私見を、私の私見に対しての私見を聞いて、私の質問を終わりたいと思います。

○議長（福田 茂樹君） 通告にありませんけど、町長、答えられますか。

吉田町長。

○町長（吉田 秀光君） 時代は違いますが、二宮金次郎の像がどの学校の校門にもあったという時代をほうふつとして思い起こさせるような池田議員のお尋ねであったと、非常に感銘を受けながら拝聴いたしました。

○議員（3番 池田 雅俊君） 終わります。

○議長（福田 茂樹君） 以上で池田雅俊議員の一般質問を終わります。

---

○議長（福田 茂樹君） 以上で本日の日程は終了いたしました。

本日はこれにて散会します。御苦労さんでした。

午後1時57分散会

---